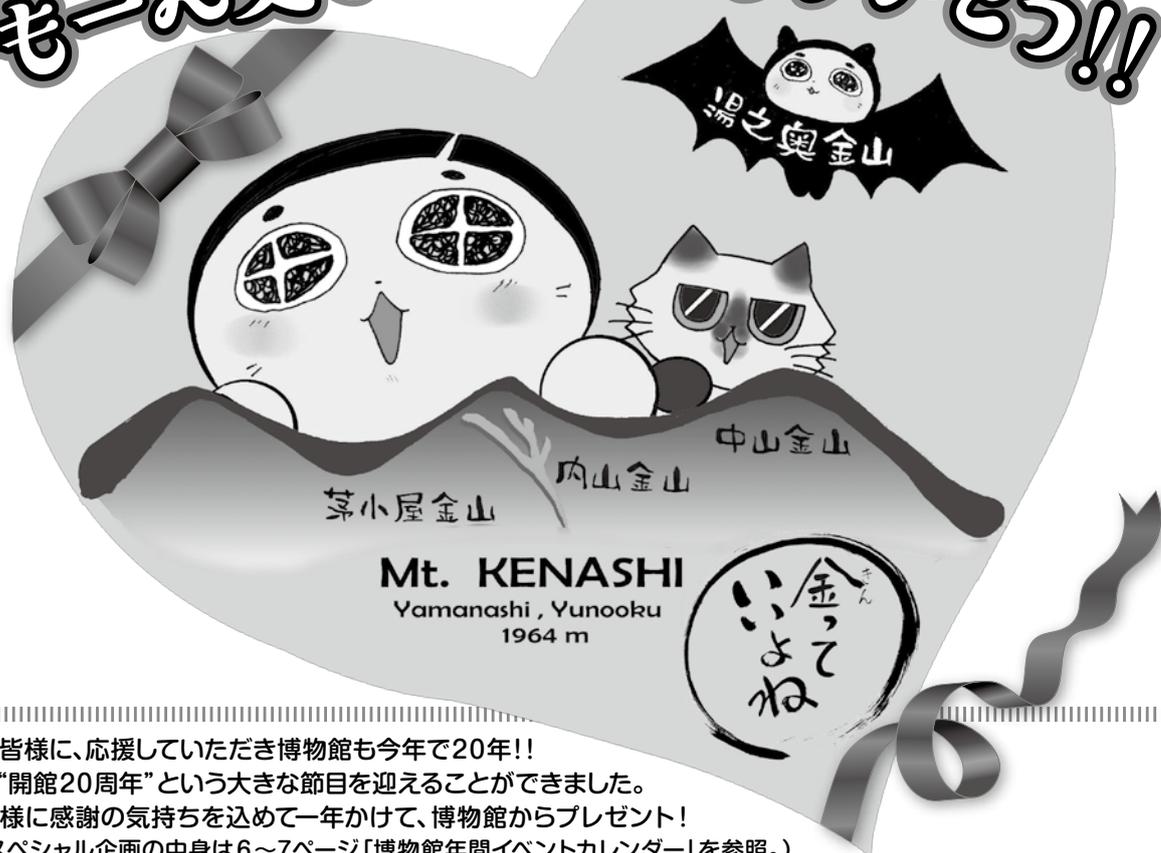


博物館だより

国指定史跡・甲斐金山遺跡／湯之奥・中山金山 甲斐黄金村・湯之奥金山博物館報

2017.4.24
20th ANNIVERSARY
もーん父さんからもありがとう!!



皆様に、応援していただき博物館も今年で20年!!

“開館20周年”という大きな節目を迎えることができました。

皆様に感謝の気持ちを込めて一年かけて、博物館からプレゼント!

(スペシャル企画の中身は6～7ページ「博物館年間イベントカレンダー」を参照。)

20周年を迎える2017年の博物館キャッチコピーはこちら!

もーん父さんからも ありがとう

10 + 10 = 20!

「20」が合言葉。世代問わずすべての人に楽しんでいただけるスペシャル企画は、まずは砂金採り体験室から! 現状砂金に対し20%増量で入っている「砂金」ならぬ「砂白金(プラチナ)」!できるだけたくさんの方に受け取ってほしいので、たくさんのお小さな白銀色の輝きにたくさん感謝の気持ちを込めました♥♥

砂白金GET期間:2017年4月15日(土)～9月末日まで

お山の神さん

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 館長 出月洋文

わが湯之奥金山博物館の名物展示に、国史跡となっている中山金山の調査成果に基づいた中世の金採掘を生業とした村のようすを紹介する大ジオラマがあります。すでに皆様何度かご覧になっているかと思いますが、ジオラマの背後の壁面にジオラマと一体となったドラマ映像が投影されます。右に示した写真は、その最後の方の一コマで、「今日はこれで30匁（約112g）こえたさ」という報告を受けた金山衆の親方が、「夜ンになったら俺ン、みんなに酒をごちそうしてやらあ。山ン神様にもな。久しぶりの宴会ずら。」と満面の笑みの中で、今夜は俺が酒を振る舞うからパッとやろう、お山の神さんにも感謝しながらという趣旨の受け答えをするシーンです。

そう親方の台詞に登場する「お山の神さん」…これが今回の話題です。

実際のところ、中山金山遺跡に登る山道の、まだ登り始めといったあたりに、自然石の立石による山の神が祀られており、お山に入る際には自然に手を合わせるところとなっています。

昔、人々は山に入り、山の自然とうまく調和をとりつつ、山の恵みを利用して暮らしを立ててきたところがあります。薪や炭（燃料）、建材、紙漉きなどの手工業原料、肥料、ワラビやトチの実にキノコ、動物の肉など食糧、そのほか様々な形で恵みを受用してきたのです。金などの鉱物資源も、はじめに挙げた物ほど一般的ではないものの、その例に入らしょう。

昔の人々は、こうした山の恵みに対し、自分たちの努力で当たり前で得られるものとは考えていなかったようです。古い時代の人々の努力には限界が付きものでした。最善の努力を尽くし、なお足りない部分を神仏に願ってきたことは、いろいろな場面に現れています。



金山への登山道の傍らに立つ山の神に手を合わせることも、昔の金山衆が時折張ったであろう夜の宴の中で山の神に杯を献げたことも、みな同じ形のものにとらえることができましよう。

こうした人と神の関係は、さらに遠い昔の『古事記』の世界にすでに成立しているのが知られます。3～4世紀頃のことかと見られる古墳づくりについて、亡くなられた大王の葬送のシステムにうまく合うように突貫工事で巨大な前方後円墳が築造されたのですが、日没の頃見たのと次の日が上がる時分に見た工事状況が違って、当時の人の目には「昼は人が造り夜は神が造る」と映ったことが記されているのです。

いまここに、人が力を尽くしているのを神が助けるといふことの例に挙げましたが、古墳の場合は、人と神の境界が現代の私たちが考えるのとは相当に違ってはいたことは確かなので、少し注意が必要なのかもしれませんが、相通じるものはあると考えられます。

ここで話は大きく転じますが、この早春のある日、当館の前庭の一角に設置されていた『身延町観光エリアマップ』が更新され、ずいぶんきれいにわかりやすくなりました。とりわけ大きな改善点は、地名に英語表記が添えられ、遠来のお客様のうち外国からお見えの方にもエリアマップの提供する情報が便利に、豊かになったという点があります。

この観光用マップ、その前に立ち止まってし

ばしば眺め入ることがあり、今の地域の姿や歴史的な情報などがいろいろと読み取れることを楽しんでいるのですが、先日も面白いことに気付いたりしました。それは「山神社」もしくは「山神神社」というのが、6カ所も存在したことです。しかもなぜか、富士川の左岸、旧下部町を中心とした地域にまとまっていたのです。

なぜだろう。身延町のエリアを紹介するベースとなる情報に旧町ごとの違いがあったためか、それとも富士川右岸には山の神さんは存在してこなかったのか。

町内の北川地区に木喰さんの彫刻を祀る山神社がいまも伝わりますが、それが今回のエリアマップには表記されていないということもあるので、すべてのエリアを対象に均等に情報を精査して作成されたということではないのかもしれませんが。中山金山への登山道途中にある、立石で表されただけの山の神さんもやはり載っていません。

もとより話題としたエリアマップの役割に、身延町地域に山の神さんがどのように祀られてきたか、を考える手段となることは求められていな

いことはわかっています。当館の周辺にはいくつもあるなあ、ということだけは確かではないか、ということですよ。

ちなみに昭和56年に刊行された大冊の『下部町誌』を紐解くと、第11編宗教の第1章神社の項に「町内（注：旧下部町）七六社の中で山神社系統の神社は一二社あり、特に下部地区には九社と集中的に祀られている。」(p.1632)との記述が見られました。やはりそういうことなのでしょう。それだけ、この地域は山の恵みとの繋がりが深いということなのでしょう。

先ほど引用した『下部町誌』の山神社系統の神社の記事の続きに「祭神は『大山祇神』で、山々の精霊を総括支配する神である」との説明が続いていました。

山々の神に近いから数多く祀られているのか、山々の神々との関わりが深いからその導きにより金鉱山の発見ももたらされたのか。民俗学とはほど遠い人種が迷い込んでしまった「お山の神さん」の話、まだまだ先を見てみたい魅惑的な世界です。

開館20周年記念講演会第1弾!のお知らせ

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館は皆様のおかげで、平成29年4月24日に開館20周年を迎えます。20年を迎える今年度は、通年にわたりイベント開催予定ですが、その第1弾として当館の出月洋文館長の記念講演会を開催致します。

講演会終了後は、出月館長の解説で博物館内をご観覧いただくとともに、今回の講演会に合わせて、皆様があっと驚き、そして喜んでいただけるような“特別展示”を公開いたします。是非お誘いあわせのうえ、ご来館ください。

演 題：「湯之奥につなぐ金の夢」

～総合調査から30年、史跡指定並びに開館20周年を見つめながら～

開催日：平成29年4月23日(日) 午後1時30分～3時30分

※講演会終了後の、出月館長解説による博物館内覧時間を含みます。

場 所：湯之奥金山博物館2階映像シアター

参加費：無 料(要事前申し込み)

活動報告

36万人目の有料入館は高橋さんご夫妻

1月6日(金)



2017年最初の開館を迎えて間もないこの日、36万人目の有料入館にあたるお客様をお迎えいたしました。ラッキー入館者となったのは、東京都

在住の高橋正治様、重子様ご夫妻。お住まいの地域で下部温泉が保養施設の提携関係にあったことが「下部温泉」に宿泊するきっかけとなったそうです。また奥様が、幼いころにいずこで砂金採り体験をしたことがあったが全然採れなかった記憶があったのでリベンジを果たそうと思って、と笑いながらお話をいただきました。出月館長から花束と記念品を受け取り記念撮影後、館長の案内で館内を見学されました。砂金採り体験も楽しみ見事当館でリベンジを果たし、満喫されました。

第5回金山遺跡・砂金研究フォーラム

2月4日(土)

毎回好評の「金山遺跡・砂金研究フォーラム」が金山博物館応援団Au会主催、博物館共催で去る2月4日(土)に盛大に開催されました。北は北海道、南は島根県と約70名以上の方々が発表者・聴講者として訪れてくれ、映像シアターもほぼ満席状態で、質疑応答では活発な意見交換となりました。今回の発表者は9名。出月館長の「2016年度後半の金山博物館周辺事情」と題した挨拶と発表により、このフォーラムの概要やあり方をお話しいただいたところからスタートとなりました。テーマは多岐にわたりましたが、時に笑いを交えながらの発表に聴講者の皆さんはまじめに楽しく発表に耳を傾けていました。

応援団の皆さんは、それぞれ興味を持った事柄に対して、自由に向き合っており、かつ楽しみながら自分なりの調査と研究を行っています。応援団代表としてこの日の会を締めくくった本間純さんは「自分が思いもよらなかったことや考えなかつ

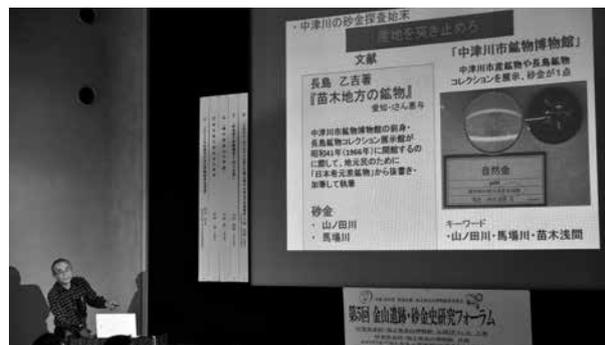


たことを、他の人はこんなことを考えているんだと知りえるこのフォーラムのような機会は、面白いうえにすごく勉強になるし、インターネットを検索するよりもはるかに情報収集になる。」という言葉をいただきました。

当館は、これからも金山遺跡・砂金に関する「知」を集積する場として、皆さんとともに学び成長していく変化を常態とするような愛される学術施設であり続けたいと願います。



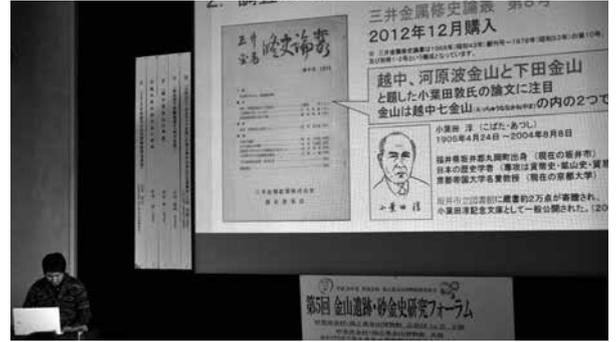
飛騨の金山について2011年から継続的な調査を行っている広瀬さん。継続的なフィールドワークが地域の歴史解明の一助となり、知識や資料が集積されていくことによって、また新たな歴史がわかってくる…。地道な研究が歴史を明らかにしていく一例を発表しました。



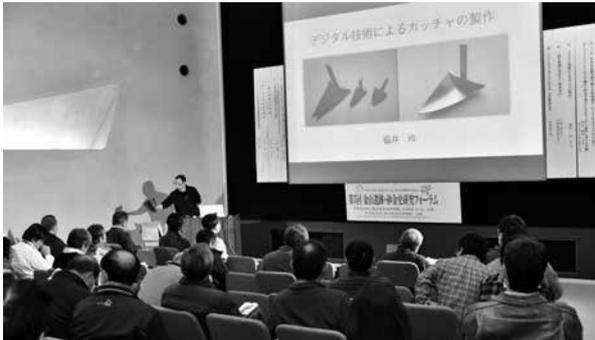
中川さんの「岐阜県中津川市の砂金」では、もともと中津川がどんな位置付けの場所かを丁寧に説明しつつ、鉱物採集と砂金採集における資料集めには産地を明らかにした採集とサンプリングが重要という注意事項を付加した発表がなされました。



砂金掘りを趣味にしている人にとっては、とっても気になっていた問題！けど、何となく思っていただけだった！という「フラットパン・ターボパンで細かい砂金は逃げていないか？」という疑問に対する答えを、実験動画を通して、わかりやすく見事に披露した野村先生。



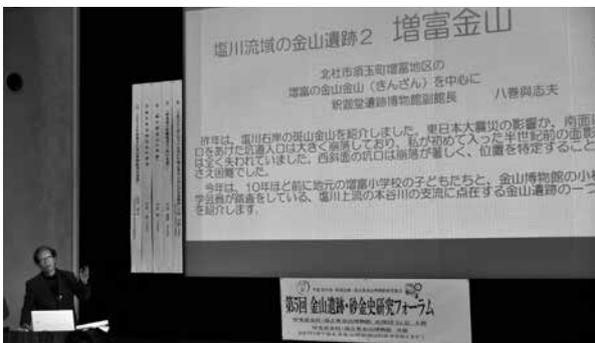
中村さんが実践している、文献をもとに地元資料（史料）の探索や現地調査に挑戦するという研究方法は、これから調査をしたいと思う方にとってガイドラインにもなりそうな手段のひとつ。



製作できる人、そのものを知っている人も少なくなってしまった砂金掘り道具に必携な「カッチャ」をテーマに発表した福井さん。様々な種類があるが言葉で伝えるのが難しい鉄製道具→3Dサンプルで職人にイメージを伝える！ということで、3Dデジタル技術を駆使したカッチャサンプル作成について発表。



多くの方が興味を持つ「砂金採り体験場」をテーマにした発表は、今回で2回目となる石田さん。今回は西日本編でしたが、西日本編だけに関東在住者にとってはなかなか行くことが難しいうえに、湯之奥とはだいぶ趣の異なる体験場が目白押しでした。



地域との密着も強い山梨・増富金山の発表を行ったのは、釈迦堂遺跡博物館副館長の八巻與志夫さん。須玉町史によれば、徳川時代に隆盛を極め、それに乗じて詐欺事件も発生した程です。そんな増富金山の歴史に聴講者の皆さんは耳を傾けていました。



オオトリは、おなじみ松江高専・久間英樹先生。3次元レーザーキャナを用いた湯之奥金山の定量解析を進める中で、調査に入ったある坑道が実は危ういバランスで存在している話など、みんなのハートががちりキャッチ。世界最小のパンニング皿ともいえる「パンニング皿キーホルダー」は3Dプリンターで、参加者全員分を作成してきてくれたもの。これまたみんなのハートをキャッチ！発表を締めくくっていただきました。

また、フォーラム当日エントランス壁面にて発表したポスターセッションは、1階博物館エントランスにて展示中ですのでご来館の際は是非ご覧ください。また、当日のフォーラム資料は1部500円でお求めいただけます。ご希望の方はお気軽にお申し出ください。在庫がなくなり次第終了です。

なお、今年度『金山史研究』は“近年の史跡

保存活用と博物館活動・谷口一夫初代館長に捧ぐ”と副題を冠し、5回まで開催してきたこの「金山史・砂金フォーラム」の資料を再編集し収録します。谷口一夫前館長への皆様からの追悼文と合わせ、谷口前館長のコラム・講演記録などをまとめた追悼特別号となっております。刊行をお楽しみに。

館内常設展示大幅リニューアル! 4月23日(土)から公開!

装いも新たに20年の節目を迎えるべく、エントランス挨拶板、また常設展示内の甲州金コーナー、「全国都道府県の砂金」の展示コーナー、湯之奥金山関連年表など、大幅に刷新準備中です。砂金コーナーでは「日本国中どこでも金が採れる。黄金の国ジバングは本当だった!」という面白テーマを、博物館応援団の皆様のご協力をいただきながら、砂金標本で斬新に展示表現すべく、作業を進めています。どの県の砂金が採取済みでどの県の砂金は未採取なのか、誰が見ても一目瞭然でわかるような“日本砂金地図”の完成を目指しています。展示公開は来る4月23日(土)、出月館長の講演会の日からです。

なお、公開後も資料追加していくことで、少しずつ砂金地図の完成を目指していきますので、資料が加えられ地図が次第に仕上がっていく様子を楽しみながらご覧いただければ幸いです。

金の寛永通宝

このたび、横浜在住の吉田明弘様より「金の寛永通宝」をご寄贈いただきました。貨幣界で珍品とされるこの資料の作成時期は、江戸時代は間違いないものの、詳細にいつ作られたかはわかりません。用途としてはチップ代わりに大名が使ったものと考えられ、このままの状態通貨として使うことはないという性質から、「貨幣」というよりも「地金」を「寛永通宝」の形に模したものといえます。貨幣価値としては「壱分判」くらいとみられていますが、「通貨」というよりも「贈答用」のお金と考えられます。金の寛永通宝については、紀州藩でのみ記録が残っていますが、他所にはそういった史料は見当たりません。

吉田様のご厚意に深く感謝申し上げます。常設展示に追加展示し、4月23日の館長記念講演の際に、一般公開いたします。

地元高校との共催事業「第2回錫クラフト体験教室」

2月13日(土)

山梨県立峡南高等学校との今年度2回目のコラボイベント「錫クラフト体験教室」。子ども達にモノづくりの楽しさを知ってもらおうと同時に、講師役となる生徒にとっては、この体験研修を通して、指導力向上・社会勉強できる絶好の機会。今回の生徒は、皆1年生で教える側に立つ機会は初めて。緊張しつつも参加者に教えていました。参加者も初めてのチャレンジで、出来上がった作品に満足していました。次年度も開催予定ですので、多くの方にモノづくりの楽し

さを経験していただきたいと思います。



茅小屋金山遺跡調査

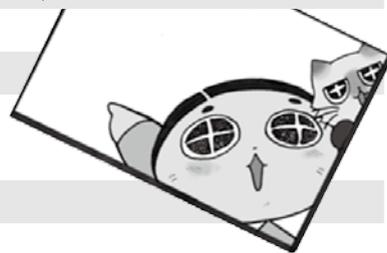
3月15日(水)

あと2年ほどで 湯之奥金山遺跡総合学術調査開始から30年という年月を迎えようとしています。中山金山遺跡の国指定が平成9年のことでした。残りの内山・茅小屋金山をもっともっと明らかにしたいという思いから、館独自の継続的調査を続けてきた2金山は、少しずつその全容が明らかになってきた中で関係者の「この2金山も地域の宝として国史跡に指定したい」という思いは年々強くなっています。そんな夢の実現に向け現地調査を進めていますが、2017年1回目の調査は3月中旬だというのに真冬並みの気温と積雪のため雪山登山。目指したのは標高1,400

m付近の茅小屋金山の最上部テラス。平成21年の測量調査時に確認してから足を踏み入っていないエリアでしたが、出月館長以下、湯之奥金山遺跡調査に常にご協力いただいている森谷忠氏のご協力のもと、スタッフは雪でさらに険しくなっているテラスまでの道を進んでいきました。積雪のため地形の確認が難しく、今回の調査では、湯之奥型挽き臼が一点、また採鉱域がありそうな位置を確認するまでに留まりましたが、確かな手ごたえを感じつつ、次回への調査につなげていき、今後もこうした場を借りて、皆様に随時、現場の状況報告をさせていただきます。

開館20周年企画満載!! 2017年イベントカレンダー

4月	1日	砂金採り体験利用料金改定スタート
	8日	於 甲府よっちゃばれ広場 信玄公祭り (もーん父さん)
	15日	～9月末日まで 体験室+砂白金 (プラチナ) 期間限定イベント スタート
	22日・23日	於 双葉ラザウォーク開館8周年記念イベント参加 (もーん父さん)
	23日	出月館長基調講演「湯之奥につなぐ金の夢～総合学術調査から30年、史跡指定並びに開館20周年をみつめながら」
5月	4月27日～5月9日 ゴールデンウィーク無休期間	
6月	10日	開館20周年記念講演会 (講師:萩原三雄氏、他)
	24日	於 大手町よみうりホール「ゴールドフェスタ2017」(もーん父さん) 7月10日から～8月20日まで「夏休み特別企画“自由研究相談箱”」設置
7月	16日	第9回化学実験教室
	29日	第17回砂金掘り大会 (一般大会)
	30日	第14回東西中高交流砂金掘り大会 (学校大会)
8月	11日・12日	第17回こども金山探険隊
	13日～16日	お盆期間プチイベント開催 (宝石すくい・金銀たまごくじetc.)
9月	10日～16日	身延町民感謝ウィーク! 7日間町民限定! 無料観覧、砂金採り体験無料 (期間中1人1回のみ)
10月	もーん父さんイラストコンテスト募集開始 (11月3日みのぶまつりで発表→以後各施設巡回展示)	
11月	3日	みのぶまつり&金山博物館20周年コラボイベント「熱気球搭乗体験」 於 総合文化会館
	18日・19日	ゆるきゃらグランプリ2017 (三重県桑名市ナガシマリゾート)
	(25日・26日)	世界キャラクターさみっとin羽生2017 (埼玉県羽生市))
12月	17日	ジェルキャンドルづくり体験教室
	中旬	企画展「こなしのしくみ～鉱山臼の形態分類～」
1月	2日・3日	新年開館 (4日振替休館)
	7日	みのぶ町成人の日 (もーん父さん)
	7日～30日	博物館から「二十歳のお祝い」記念キャンペーン (新成人該当者は町民間わず観覧無料)
2月	第6回金山遺跡・砂金史研究フォーラム	
3月	博物館オリジナル リアル謎解きゲーム	



砂金採り体験に伴う利用料金改定のお知らせ

かねてからご案内のとおり、甲斐黄金村・湯之奥金山博物館では、平成29年4月1日より、次表により利用料金が改定されます。

当館の利用料金は、よりよい学習機会とサービスの提供をモットーに、平成9年の開館以来、20年間据え置いてまいりました。これまで、皆様に世代を問わずリーズナブルな価格で金山の歴史を学んでいただき、また体験を楽しんでいただけるよう取り組んでまいりました。この間、様々な要因により金価格も大きく変動し、近時は開館時の価格から約3倍以上の値となっております。

この状況が今後も続くことが見込まれ、安定的なサービス提供の維持と向上のため、砂金採り体験料金を改訂させていただきます。何卒ご理解くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 利用料金改定 (2017年4月1日実施)

※展示観覧料金は現行料金に据え置きます。



券種	現行料金				改定後料金			
	大人	中学生	小学生		大人	中学生	小学生	
展示観覧	個人	500	400	300	→	500	400	300
砂金採り体験		600	500	400		700	600	500
観覧・砂金共通券		1,000	800	600		1,100	900	700
展示観覧	団体	450	360	270	→	450	360	270
砂金採り体験		540	450	360		630	540	450
観覧・砂金共通券		900	720	540		990	810	630

単位：円(税込)

編集後記

本当に年月の経つのは早いものです。当たり前のことなのですが20周年を迎えるということは、20年前に開館したということ。この間、博物館は何を築き上げ、周囲にどんな影響を与えてきたのか、館の歩みを振り返るとともに学術文化施設・生涯学習施設の存在価値について改めて考えるところであります。

これからの5年先、10年先を見据えた活動展開について、皆様の知的好奇心が十分に満たされるよう、新たな情報提供とサービスの向上に努め、節目の一年を展開してまいります。引き続きの皆様のご理解・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

6月までの開館時間：午前9時～午後5時迄(受付は午後4時30分迄)

休館日：毎週水曜日(水曜日が祝日の場合はその翌日)

博物館だより

第79号 平成29年3月27日

〒409-2947 山梨県南巨摩郡身延町上之平1787番地先

TEL 0556-36-0015 FAX 0556-36-0003

博物館HPアドレス <https://www.town.minobu.lg.jp/kinzan/>

博物館Eメール yunoking@town.minobu.lg.jp もーん父さん  